

# 新型コロナウイルス感染拡大防止のため 新しい生活様式を取り入れた地域福祉活動ガイドライン ～地域のつながりがより安心・安全にできるように～

令和2年6月 作成

## 1. はじめに

感染対策を意識しながらも、地域福祉活動を通して住民同士がつながることの歩みを止めないことが大切です。

私たち一人ひとりが新しい生活様式を理解して、今後も安心・安全な福祉のまちづくりが続けられるように作成した「地域福祉活動ガイドライン」です。

## 2. 一人ひとりの基本的感染対策

まず、私がすること

### 4つの基本 (地域福祉活動を行う前の感染対策)

① 手洗い、手指消毒の励行 (流水とせっけんで30秒かけて手を洗います。)

例えば

♪ハッピーバースデー トゥーユー♪ を2回歌いながら洗うと30秒です。

② 外出前に検温し、普段と違う体調の場合は活動を見合わせましょう。

③ マスク着用

④ 身体的距離の確保

(ソーシャルディスタンス 人との間隔はできるだけ2メートルあけましょう)



## 3. 地域福祉活動について

### ■会議、研修会

- ①一人ひとりの基本的感染対策をしましょう。
- ②公民館やコミュニティセンターの感染拡大防止基準に合わせて開催方法を検討しましょう。
- ③会議・研修内容と参加者の規模縮小、時間短縮をはかりましょう。
- ④感染者が発生した時のために参加者の連絡先がわかるようにしましょう。
- ⑤検温を忘れた方は会場に入る前に検温をしましょう。
- ⑥会食等での料理は大皿を避け個別に配膳、茶菓は個包装されたものにしましょう。
- ⑦換気は2方向を開けて1時間に2回、5分くらいは換気しましょう。

### ■福祉協力員の見守り・声かけ・訪問活動について

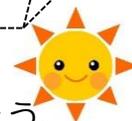
- ①一人ひとりの基本的感染対策をしましょう。  
\*心配な方の状況に応じて次のような工夫をしながらの見守りをお願いします。
- ②玄関先や庭先で声かけしましょう。
- ③短時間で安否確認をしましょう。

### (地区活動での工夫の紹介)

- ◇ 福祉協力員さんが外出時、気になるお宅の電気がついているか、新聞や手紙がたまっていないかなど気にかけています。
- ◇ ごみ捨てなど集積所で顔を見かけたときに、簡単に様子を伺ってみる。また、近所で気になる方の友人などと話すことがあれば、最近のかかわりに変化がないのかなど、お話を聞いています。

### ■これからのいきいきサロン活動

- ①大勢が集まり密になることは避けましょう。屋外の開催も検討してみましょう。
- ②近距離で向かい合っただけの会話を楽しむ際は仕切りなどを活用し感染予防をしましょう。
- ③会食等での料理は大皿を避け個別に配膳、茶菓は個包装されたものにしましょう。(自分の飲み物を持参しましょう)
- ④激しい呼吸を伴うような運動は控えましょう。



### (地区活動での工夫の紹介)

- ◇ マスクは装着したまま、近況報告をしています。「前回から変わったことはなかった？」などと少しでもお話をすることがとても有意義です。
- ◇ お天気が良いときは、屋外での活動にしています。(ラジオ体操、少人数での散歩、歩こう会、グラウンドゴルフ等)
- ◇ いきいきサロン等の参加者が大勢の場合、苗字のあいうえお順や町内をいくつかのグループに分けて曜日や時間を変えて開催しています。

## 4. これからの新しい活動様式

- ◇一人ひとりが、自分で感染防止対策をとり、新たな方法での集まり方を工夫しましょう。
- ◇新たな安否確認方法や介護予防の取り組みや近隣住民のつながりの維持等は、それぞれの地域の実情に合わせて行っていきましょう。
- ◇地域を担当する生活支援コーディネーターと相談しながら一緒に活動について話し合しましょう。
- ◆今後新型コロナウイルス感染状況によってはガイドラインが変更になる場合もあります。

参考：厚生労働省 「新しい生活様式」の実践例より

【お問い合わせ】

山形市社会福祉協議会 地域福祉課 ☎ 645-8061